

一関地域における畑わさび栽培導入の試み

1 はじめに

令和3年度に遠野農林振興センターが県南全域を対象として実施する「畑わさび産地づくり支援事業」を活用して、一関市大東町の生産者1名が一関地域で初めて本格的に畑わさびの栽培を開始し、令和5年6月に初出荷しましたので、植栽から収穫までの取組について紹介します。

2 植栽から収穫までの取組状況

(1) 1年目

圃場の候補地は、広葉樹林で林床は背丈程度の笹が繁茂していました。9月に栽培の適否を判断するため、遠野農林振興センターと遠野市の畑わさび生産者等を講師に招き、現地指導会を実施しました。「標高が低く夏の気温上昇が懸念されるが、日照や傾斜等の環境は畑わさび栽培に適している。」との助言があったので、生産者は笹の根を丁寧に取り除き、約3.2aの圃場を整備しました。



苗の植付け

10月には、遠野市産のわさび苗を70cm×45cm間隔で960本(300本/a)植付け、野生動物による食害を防止するため、電気柵も設

置しました。

(2) 2年目

花摘みや除草などの栽培管理を行い、6月までは順調に生育していましたが、7月に圃場全面に虫の食害と思われる被害が発生しました(原因は特定できませんでしたが翌年の生育には影響がありませんでした)。

(3) 3年目

収穫直前の6月中旬に圃場全面にカブラハバチによる葉の食害が発生しましたが、収穫の際は葉を落とすので特に問題はありませんでした。

収穫量は523kg(約1.6t/10a)と上出来で、生産者も手応えを感じたようです。



収穫した畑わさび

来年も継続して栽培を行うため、今年の秋には春に採取した種を撒く予定です。

3 おわりに

一関地域では、令和4年度に新たに2名の生産者が栽培を開始し、令和5年度は、さらに1名が栽培を開始する予定です。当センターでは、引き続き、新規生産者を掘り起すとともに、遠野農林振興センターと連携し生産者の支援を行っていきます。